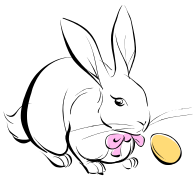
京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 NO.104



２０１４年　６月発行

事務局：医療法人　つばき医院内
〒602-0895　京都市上京区上御霊前町 410
TEL　075-411-1011
FAX　075-411-1020
e-mail　office@kyo-psw.org
HP　http://www.kyo-psw.org/

【心神喪失者等医療観察法　公開学習会】

テーマ：

「地域」から映しだされる医療観察法

日　時：2014 年 7 月 11 日（金）19:00～21:00
場　所：キャンパスプラザ京都 第二会議室
参加費：会員無料　　非会員 500 円

私たち PSW は、様々な形で地域で生きるクライエントの支援をしています。医療観察法という制度と施設が生まれて 8 年になります。そこで、昨年 12 月の「天橋立一泊研修」にて、クライエントから見える風景を、動画を通して垣間見ようとの試みを行いました。その風景は、私たちが懸命に取り組む「地域生活支援」の課題を映し出し、「地域」について考えるきっかけとなり、考えを深めることが出来たと思います。

今回は、天橋立一泊研修で行なったプログラムを少しアレンジし、京都市内で単独で行なうことになりました。一泊研修は参加が出来なかったという方にも、研修に参加したけれどもっと深めたいという方にも、有意義な時間となるように準備をしております。

～プログラム内容～

・医療観察法の概要

・滋賀県の医療観察法病棟内覧会および意見交換会の報告
・動画「医療観察法病棟」上映
　＊入院中にアパート退院に向けて外泊練習をするクライエントなどが登場します

「医療観察法には直接関わったことがない」という PSW がほとんどだと思いますが、入院治療が終了してから利用するのは一般的な地域生活支援です。今回はその「地域生活支援」に焦点を当てた学習会です。みなさまのご参加をお待ちしております。

（心神喪失者等医療観察法学習会）

【第 14 回（2014 年度）総会概要報告】

■会長挨拶

おはようございます。本日は京都精神保健福祉士協会 2014 年度総会にお運びくださり本当にありがとうございます。

みなさん日々現場で多くの課題を抱え、忙しく、奮闘されていることと思いますが、協会はみなさんにとって支え手となっているでしょうか。

今日は総会ですのでこの職能団体としての京都精神保健福祉士協会がどうあればいいのかを考えていただく時間、できれば声にあげていただく時間にしていただければと思います。

協会にはその役割として、一つは SW としての資質の向上をめざすということ、一つはひとりではできない社会に向けてのアクションを、志を同じくする専門職集団として行っていくということを掲げており、この二本柱となる役割が果たせるようにするにはどのように機能していけばいいのかを考え、活動する中で今の組織体制まで広がってきました。本日配布した組織体制表を眺めてみると延べ約 65 名の方が何らかの参加をしてくださっています。本当に多くの会員のみなさんのご協力で成り立っている活動なのだと心からありがたく思っています。それでも現場での多忙さに、協会活動にはなかなか足が向かないということも現実だと思います。どうすれば少しでも参加していただき、「つながる」ことができるのか、運営にたずさわる役員のほうからもタイムリーで丁寧な発信が必要でしょうし、みなさんからもアイデアがあればお聞かせいただければと思います。この「つながり」が「日頃のネットワーク」にもつながり、地域づくりにもつながり、いざというとき（災害時）にも活かされていくのではないかと思います。

「精神保健福祉士」という国家資格をもつ以上、私たちは常に、国民にとって、社会にとってどれだけ役に立つものか（都合のよいではなく）ということが問われています。昨今のめまぐるしい法制度改正や社会情勢の変化に対応するだけで精いっぱいという状況の中大事なものを見失ってはいないか、そんな自戒の念を込めて、午後からは柏木

昭先生と荒田寛先生をお迎えしてメッセージをいただきます。みなさんそれぞれが自らの実践を、原点に立ち返って見直す機会になることと思います。

協会では今年もいろいろなことを「ともに学び」「ともに向き合い」「ともに分かち合い」「ともに行動」していきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。簡単ではありますが開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■議事

日時：2014 年 5 月 25 日(日)10:30～12:30
場所：ハートピア京都(京都府立総合社会福祉会館)3 階大会議室
司会：知名純子(役員)
議長：熊取谷晶（京都府精神保健総合センター）
書記：出﨑真李奈（宇治おうばく病院）・藤本信吾（たかぎクリニック）
総会運営委員：松本裕介（委員長・役員）・占部綾子（三幸会うずまさクリニック）
大石裕一郎（役員）・大門　篤（宇治おうばく病院）・舘澤謙蔵（いわくら病院）
総会成立状況:議決権あり会員数 339 名(会員数 345 名)
出席　202 名(会場 49 名委任状 153 名)
成立要件(過半数 170 名の出席)を充たし総会は成立
傍聴　2 名(議決権無会員)

第 1 号議案
「2013 年度事業報告」報告:斉藤・各担当役員(川上・下村・知名・藤井・宮崎)
「2013 年度会計・監査報告」報告:石﨑(会計担当役員)・岡島(会計監査)
(採決)拍手 賛成多数にて承認

第 2 号議案
「2014 年度事業計画」報告：橋本
「2014 年度予算案」報告：大塚
予算案の会費収入の金額に前年度の前受金を含んで計上していたため下記の訂正を行った。
(収入の部)　2014 年度前受金 32,000 円をマイナスする
前年度繰越金：1,683,357 円－32,000 円＝(訂正)1,651,357 円
収入合計：3,288,857 円－32,000 円＝(訂正)3,256,857 円

(支出の部)　2014 年度先前受金 32,000 円をマイナスする
予備費：816,357 円－32,000 円＝(訂正)784357 円
支出合計：3,288,857－32,000 円＝(訂正)3,256,857 円

※質疑にて前受金の処理方法について意見があるが、収支の合計金額の変更がないため採決を行う。
質疑応答の内容は下記の質疑の箇所を参照して下さい。

（採決）拍手　賛成多数にて承認

■質疑応答概要
第 2 号議案に関して

〇池田和子さん（京都生協）
①今年度倫理委員会を立ち上げると話されていたが、昨年の経費加えてそのための経費が掛かるのでは？
⇒回答（西村）
倫理委員会については新しく立ち上げるわけではないがそのように捉えられる説明であった。申し訳ない。今までのものを継続していく方向で連年並みの予算を計上している。万が一倫理委員会が動かなければならない案件が発生した場合は追加で予算が必要になるということもある。

②第 2 号議案予算案について訂正があったが、先払い会費収入の処理は繰越金にそのままに入れておいて会費収入で減らす方が良いのではないか？繰越金は決算で承認されているので変わるのはよくないだろう。
⇒回答（西村）
前受金の会費をどのように計上するかということで、ご提案の方法は現実の即していると思う、が今この場で決めることができない。会計処理の方法についてはきちんと検討して判断したい。議案書の予算の訂正もあるので後日正しいものと含めてメール配信させていただきたい。

〇山本幸博さん（ジョイント・ほっと）
地域移行に関して病床転換型施設について出てきているところだが、このままただ進んでいってよいのか精神保健福祉士として疑問を感じている。長期入院の方が退院していくためにはまだまだ難しい面もあるがこのような形で「退院」としてよいものか、もっと語り合うことが必要。そういう流れの中にどうすることもできずにいる専門職も多いと思うのでそのような葛藤や、何かできることはないのかを話し合ったり、いい知恵があれば日本協会に伝えていったり、あるいは何か声明を出すとかなど、話し合う場を作る企画は考えておられるのか？
⇒回答

（知名）福祉制度委員会の中でも行政に訴えていくこととして挙げている。特にユーザーから声が上がっており、PSW の立場だけでなく当事者の立場からの声もあげていきたい。また、今年度また京都府支部との研修を企画する予定だがそちらのほうなどでとりあげていけたらよいと思う。
(西村) 今年度の研修計画はまだ全部が確定しておらず、支部との協力研修だけでなく役員会企画も含めて全体で検討していきたい。

〇吉田久美子さん（ジョイント･ほっと）
議案以外のことでせっかくの機会なので、みなさんと共有したいこととして発言したい。地域の事業所では相談支援事業が始まり今いる利用者の福祉サービス計画を作成するということが義務付けられた。計画作成の中で改めて地域で生活する人を支援するということが、これまでは特に「仕事」の部分だったが「生活全体」を見ていくということは「医療の利用」も計画の中に入ってくることになるわけで、これまでは何かあれば医療にということだったが、最初から一緒にみていくということが必要なことだと思った。これまで地域と医療が離れてしまっているイメージだったが福祉サービス計画をつくっていく中で一緒に医療も福祉もかかわっていけたらなと、協会のいろいろな場で再確認できたらいいなと思っている。それからもうひとつ、地域の事業所では監査で災害支援計画策定について指導を受けた。作らなければならないができていない現状。協会でも災害支援に取り組んでいるので、私もできるだけ一緒に考えたいと思う。

⇒意見に対して（西村）
本来ソーシャルワーク実践の中で「連携」は当然のこととしてあると思うが、現実には役割を分けてしまってなかなか交わり合えない点もあり反省すべき。協会の研修などでも、そういうことが意識できるような機会になればよいとと考えている。災害支援計画については後の災害支援対策委員会からのところにつなぎたい。
〇災害支援検討委員会から中條了さん（京都光彩の会）
この機会に委員会でのとりくみをみなさんにお伝えしたい。（事前に議案書とともに配布させていただいた資料に沿って説明。）東日本大震災をきっかけにこの委員会ができた。これまで災害に向けての取り組みの検討や一緒に考える機会を設けてきた。京都で災害がおこったときに、また近隣県でおこったときにどういう動きをするのかということであるが、ふだんから取り組みが必要となってくることは言うまでもない。日本精神保健福祉士協会がガイドラインを作成しており、京都協会と京都府支部でも対策計画作成にむけて動いている。その中で各圏域にわけてそれぞれ対策委員を中心にして情報を集約するという流れをつくりたい検討している。これにはみなさんの協力が必要であり、各地で考える機会を設けたい。またご意見などいただきたい。

⇒意見（補足説明）
山本幸博さん（ジョイント･ほっと）
災害対策委員のメンバーでもあるが、委員会では協会の HP を活用して情報の集約が出来ないかを思案中。昨年の台風被害のところでもなかなか各地の情報が入ってこないという状況の中、桜前線などの日常的なことで情報を収集してみるということをやってみることでいざという時のシミュレーションができるのではないかと考えている。

■議案書の誤りについてお詫びと訂正のおねがい
議案書に下記誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。
お手数をおかけしますが訂正をお願いします。

・P1～3･7　委員会等会場
　　高木神経科医院→正）髙木神経科医院

・P9　下段
　　「薬物乱用ネットワークアドバイザー会議」→
　　正）「薬物再乱用防止ネットワークアドバイザー会議」

・P14 2013 年度組織体制及び当日配布の組織体制　総会運営委員　氏名
　　舘澤謙造→（正）舘澤謙蔵

・P15　決算報告　収入の部　増減の部分にある各数字の「－」→正）「＋」

・P16　関係団体協力事業費の内訳
　　障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会 2012.2013 年度会費
　　→正）2013.2014 年度会費

【「身近な災害を語る集い in Kyoto」報告】
京都精神保健福祉士協会および日本精神保健福祉士協会京都府支部合同企画

日　時：2014 年 4 月 26 日（土）15:15～18:30
会　場：「ジョイント･ほっと」
話題提供者：宇治市社会福祉協議会 業務係長　　土田 恭仁子 氏
参加者：12 名

災害支援関連の研修としては約 1 年振りの開催となった今回の学習会では、身近な災

害をテーマに取り上げ、前半は宇治市社会福祉協議会の土田恭仁子氏より、一昨年に起きた京都府南部地域豪雨災害の時の状況や支援に関わった体験談を話していただき、後半は参加者から体験談や情報提供を相互に行う座談会形式で行いました。

土田氏からは、災害発生時からの経過とともに社会福祉協議会の対応を軸に、現場の状況や様々な関わりを通して感じたことなどを具体的に話して下さいました。災害発生時の混乱の中、組織としての決定や判断を行うことの難しさや、人手や機材、車両などの確保に苦労されたことなど、お話からは当時の状況や苦悩が伝わってきました。また災害発生の翌日から地域の方が集まり、快く支援活動に関わってくれたことが支えになったという心温まるエピソードをもとに、災害時には公助や自助とともに近隣同士の支え合いである「近助（“近所”の掛詞）」が大切であることを強調されていました。そして、教訓として提示された「災害は“まさか”ではなく、いつか“必ず”誰もが経験する可能性があること」「災害時に出来ないことは普段から出来ていないこと、課題になっていること」は、実体験から語られる言葉だけに強く印象に残りました。

後半の座談会では、昨年 9 月の台風被害の状況について京都市中部圏域の障害福祉事業所等に行ったアンケート調査の結果報告や、宮城県での被災地支援の報告をいただいた後、参加者全員から災害についての体験談や思いを話していただきました。昨年の台風 18 号により勤務している事業所が浸水被害に遭った時の様子や、特別警報が出ている中、市内の状況が把握できない中で勤務先へ向かった話、台風当日が宿直明けにあたり公共交通機関がストップしているため自宅に帰ることができず、夕方以降に公用車にて大渋滞の中を帰途についた話、また状況が分からない中で自らの動きを判断した時の戸惑いや、プライベートな立場と職員・協会役員としての動きを求められる立場との狭間で感じる葛藤など、体験談や想定される状況に対する様々な心境を語られました。参加者からのアンケートにも、「協会として取り組むべき課題が少し明らかになってきたように思う」「災害時の取り組みや具体的な体験談をお聞き出来てよかった」という感想があり、身近な災害をテーマに取り上げたことで、参加者全員が自らの問題として語り、そのことを共有できたことが大きな収穫だったと思います。

土田氏からの「“いざ”という時のために、“いつも”から何が出来るでしょうか？」という問いかけは、まさに今、協会が災害対策に向けて抱えている課題です。今回は少人数での開催となりましたが、得られたものは多く、今後も同じような学習会を府内の各地域で実施することを検討しています。より多くの方にご参加いただきたいと思います。

以下、当日の会場の様子（写真）と、「災害時への備え」への気づきに関する参加者アンケートの内容を紹介させていただきます。

組織として決定に至ること（至るまでのこと）が困難であっても、取り組んでいく必要を改めて思いました。そのためにも、結局、日頃からの、普段からのかかわりが大切であると思い、少しずつでも改めていく必要を感じました。

組織として個人としてそれぞれが出来ることを考えていかないといけないと思いました。どこに所属していても大組織として個人としてそれぞれが出来ることを考えていかないといけないと思いました。どこに所属していても大きい小さいはありますが、災害に遭う可能性はあります。こういったいろんな方と話し合い考えるきっかけを今後も作っていただければありがたいです。大きい小さいはありますが、災害に遭う可能性はあります。こういったいろんな方と話し合い考えるきっかけを今後も作っていただければありがたいです。織として個人としてそれぞれが出来ることを考えていかないといけないと思いました。どこに所属していても大きい小さいはありますが、災害に遭う可能性はあります。こういったいろんな方と話し合い考えるきっかけを今後も作っていただければありがたいです。

近隣のつながり＝「近助」が、どこにどのように存在しているのか、身近なつながりを把握して共有することが、まずできることかなと思います。



りっぱな方針の作成も大切ですが、今日の報告、学習の中で気づいたことを要点化して、お知らせしていくことが大事だと思いました。

今回の学習会の内容を記録として残しておきたい。その記録が多くの協会員の目にとまってくれたらいいのですが。

平時から“顔の見える”を少しでも増やしていけたらと思うので、今後の委員会は参加 OPEN にしていけたらと思います。

日頃、支援者の立場に立つ人から、支援要請は入れにくいと思われるので、被災されている人には、遠慮なく「大丈夫ですか？」との言葉かけの発信が貴重だと思います。大変だけれどなんとか対処している場合は返事も遅れると思いますが、「大丈夫ですか？」の言葉がけには勇気づけられると思いますので、協会から協会員への安否確認係は設置頂けたらと思います。

（報告：災害支援検討委員会）

【リレー職場紹介】



京Ｐ子ちゃん

今号は、
幸重社会福祉士事務所
精神保健福祉士 梅井 麻帆 さんです

Q1.入職したきっかけと職場のことを教えてください！

京都に移住してすぐで、地域性もどんな事業所があるのかもわからないままでしたが、個人の社会福祉士事務所ということで、時間に融通がききプライベートに時間を割くことが出来そうだった為選びました。面接の時の事務所全体の雰囲気と代表が同郷だったことと、何より事務所が一軒家なのが好印象でした。

開業して 3 年目の子ども家庭福祉を専門とした独立型社会福祉士事務所です。

代表は、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーと大学で児童福祉系科目の非常勤講師、教員・専門職研修や地域一般向け研修、講演の講師としてあちこち出かけています。

この事務所での私の PSW としての主な仕事は、障害者雇用の枠で働いているスタッフのサポートと、電話や来所された方の相談をお受けすること、子どもと関わる事業のサポート、あとはどこの事業所さんもでしょうが、事務所全体の細々したことや経理関係の補助業務などです。あとは･･･職場のメンタルヘルス？

子どもに関わる事業に、子どもの貧困対策を中心とした活動。生活困窮家庭、不登校・引きこもりの子ども達を主な対象にした生活学習支援があります。夕方から夜にかけての時間に、夕食作りをしてみんなで食べたり、みんなでボードゲームをしたりまったりおしゃべりしたり、時には勉強したりなんかをボランティアの大学生を中心に行っており、私は、活動そのものに参加すること、ワーカーとしてボランティアの話を聴いたり、関わりについてのサポートをしたりしています。

Q2. 仕事をする中でやりがい、悩み、うれしいことなどを教えてください！

PSW としては一人職場のため、やはり自分の知識量やスキルに対する研鑽は怠れないな、という責任は感じます。今までの職場は、補助金事業であったので、1 時間につきの相談料がリアルに現金で動くことで、自分のワーカーとしての相談の受け方、関わり方がそれだけの対価が見合うのか、という不安や重み、相手にとってこの 1 時間はどうだったのか、を以前より強く意識するようになりました。

ちょっとしたことにも敏感で居たいと、でも気軽に相談できる場所としては常に受け入れてくれるような場所としての態勢を維持していたいと考えています。

障害者雇用のスタッフが悩みながら悩みながら、ちょっと爆発しかけながら１つの仕事を仕上げたとき、事業を利用する子ども達が自分の力で勝手に前に進みだした瞬間に出会えたとき、嬉しくなってしまいます。

Q3.最後に…仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

今までは、精神を中心とした「障害者支援」という枠の中で働いてきましたが、この事務所で働き出してから、「障害者」という枠ではなく、人は人としてたくさん悩み、突き当たり、迷いながら前に進んでいくのだということを強く感じます。

子育て相談などのときは、保育士のスタッフに助言をもらいながら相談を受けたりしていますが、自分の知らない領域のことや経験しないことも相談としては舞い込んでくるので、「知らない」ことを恐れずに、本当に今目の前にいる人がなにを求めているのか、言わんとしているのかを見極めていきたいと思いますし、もちろん、自分の幅もますます広げていきたいと考えています。

ボランティアなどたくさんの学生さんとも関わるので、一度バーンアウトしている私だからこその伝えられることがあればいいな、とも考えています。

URL : http://yukishige.jp/

【2013 年度第 9 回役員会開催報告】

日時：2014年3月19日（水）
場所：まるいクリニック
出席：石崎　大石　大塚　川上　斉藤　下村　知名　西村　橋本　藤井　松本　宮崎

※詳細は HP をご確認ください。
http://www.kyo-psw.org/member/kapsw/media/1/201309thyakuinkaigaiyo.pdf

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

[入会]

中川　博文さん	所属）医療法人光愛会　高槻地域生活支援センター
南　恵美子さん	所属）社会福祉法人みねやま福祉会 障害者地域生活支援センターもみの木
戸次　誠さん	所属）学校法人　滋慶京都学園　京都医健専門学校
高屋　晴佳さん	所属）株式会社　アットホーム
中川　真希さん	所属）一般財団法人療道協会　西山病院

寺田　知世さん　　所属）一般財団法人　川越病院
武藤　倫行さん　　所属）ニューワンズ株式会社
真情（まごころ）デイサービス唐崎
岩橋　真帆美さん　所属）つかさき医院
前阪　千賀子さん　所属）医療法人　菅原クリニック
岡本　健佑さん　　所属）社会福祉法人　京都光彩の会　グループホーム賀陽
田中　満美さん　　所属）京都府乙訓保健所
小瀧　悦子さん　　所属）社会福祉法人　山城福祉会　槇島福祉の園
小澤　綾さん　　所属）京都市発達障害者支援センター　かがやき
北澤　香菜さん　　所属）栄仁会　ワークネットきょうと
塩田　真里絵さん　所属）京都市北部障害者地域生活支援センター「きらリンク」
松岡　暢子さん　　所属）特定非営利法人　PRP きょうと
きょうと WAKUWAKU 座

[退会]
井上　直子さん　　所属）吉祥ホーム在宅介護サービス
井上　基さん　　所属）京都市岩倉地域包括支援センター
岩根　達郎さん　　所属）京都府立洛南病院リハビリテーション課
大澤　美穂さん　　所属）三幸会うずまさクリニックデイケア
大橋　稔子さん　　所属）京都市上京区社会福祉協議会
清水　一平さん　　所属）一般財団法人長岡記念財団　相談支援事業所
・地域活動支援センター　アンサンブル
田中　洸太朗さん　所属）一般財団法人長岡記念財団　相談支援事業所
・地域活動支援センター　アンサンブル
三原　初穂さん　　所属）兵庫県立光風病院　地域ケア部相談室
吉松　正人さん　　所属）綾部市役所　福祉課
塩見　香さん　　所属）社）福知山市社会福祉協議会　三和支所
川野　栄子さん　　所属）医療法人三幸会　第 2 北山病院
大門　かおるさん　所属）社会医療法人平和会　吉田病院　精神科相談室
工藤　裕貴さん　　所属）一般財団法人療道協会　西山病院　医療相談室
加藤　瑞枝さん　　所属）京都大学医学部付属病院　精神神経科
石田　早苗さん　　所属）一般財団法人長岡記念財団　相談支援事業所
・地域活動支援センター　アンサンブル
西　まろかさん　　所属）一般財団法人長岡記念財団　相談支援事業所
・地域活動支援センター　アンサンブル
栗林　彩さん　　所属）一般財団法人療道協会　西山病院

端田　篤人さん　　所属）長野大学社会福祉部
花房　諒さん　　所属）医療法人小憩会　ACT - ひふみ
関口　知佐子さん　所属）ウィメンズカウンセリング京都
江川　遥さん　　所属）一般財団法人長岡記念財団
長岡病院　デイケアセンター
鈴木　晃さん　　所属）NPO 法人洛南福祉会 JACS
地域活動支援センターむすび
川﨑　光生さん　　所属）京都保護観察所
安田　志津さん　　所属）ウエノ診療所
中原　美加さん　　所属）ウエノ診療所
井上　幸久さん　　所属）高槻市地域生活支援センター
望月　梓さん　　所属）宇治おうばく病院

[氏名変更]
神門（旧姓：橋本）慧さん　所属）同胞の家
今井（旧姓：北川）愛子さん 所属）太子道診療所

[所属機関変更]
木下　秀美さん　　所属）教育と人間関係の相談室　カンナ
松井　基さん　　所属）クリニックもみじ
粟津　佳子さん　　所属）左京保健センター
金作　祐布子さん　所属）社会福祉法人　なづな学園
宮島　真澄さん　　所属）なし
上田　真生子さん　所属）宇治おうばく病院
出崎　真季子さん　所属）宇治おうばく病院
藤原　真由美さん　所属）一般財団法人　長岡記念財団
長岡病院　医療社会事業部
玉田　明子さん　　所属）島根大学医学部看護学科
大石　裕子さん　　所属）第二北山病院　デイケアかりん
和田　美智子さん　所属）山科保健センター
健康づくり推進課　母子・精神担当
中條　了さん　　所属）京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」
栗森　和沙さん　　所属）就労支援センター　ヒューマンプラス
池上　明希さん　　所属）京都府立医科大学附属病院　精神科・心療内科
小出　享一さん　　所属）一般社団法人　いばしょ
安藤　俊輔さん　　所属）医療法人　栄仁会　宇治おうばく病院

山田　智子さん　　所属）京都市こころの健康増進センター　デイ･ケア課
田中　大二郎さん　所属）京都市西部障害者地域生活支援センター「うきょう」
鈴木　淳子さん　　所属）東宇治北　地域包括支援センター
藤本　通孝さん　　所属）特定非営利活動法人さまさま　楽々堂

会員数：5 月 25 日現在 348 名

※事務局よりお願い
会員名簿の作成準備を始めます。所属機関変更などあれば、事務局に変更届をお送りください。よろしくお願いいたします。

ほっとひと息コーナー

子どもができてからは、とにかくいろんな公園に出かけるようになりました。その中でも最近は家から近いこともあって、鴻ノ巣山運動公園へよく出かけます。

車じゃないとちょっと不便な場所にあるのですが、園内は広くて安心して遊ばせることができます。また、駐車場も 2 時間までなら無料なのもありがたいです。

この公園の名物ともいえるのが、ローラースライダー。2 本スライダーがあるのですが、長い方は全長約 140 メートルとかなりの長さ。うちの 4 歳の娘も楽しんでいますが、大人でも十分楽しめる長さです。

休みの日には行列になって滑るのに時間がかかりますが、滑り下りた時には気分爽快です。また、スライダーを滑るためには、かなり上の方まで歩くので、運動不足の解消にもなります。

子連れの方はもちろん、そうでない方にもぜひお勧めの公園です。

【編集後記】
最近、ベランダで夏野菜（黒トマト）の栽培を始めて黄色い花が咲いています。ぐんぐん背を伸ばしていく苗を見ながら楽しみにしています。（松井玲子）
ついにサッカーW 杯が始まってしまいました。日本の試合じゃなくてもついつい見てしまうので、やっぱり寝不足になりそうですね。（中田亮太）

